

1998年8月4日(火) → 9月20日(日)

開館時間—午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)

休館日—8月9日(日)・10日(月)・17日(月)・24日(月)・31日(月)

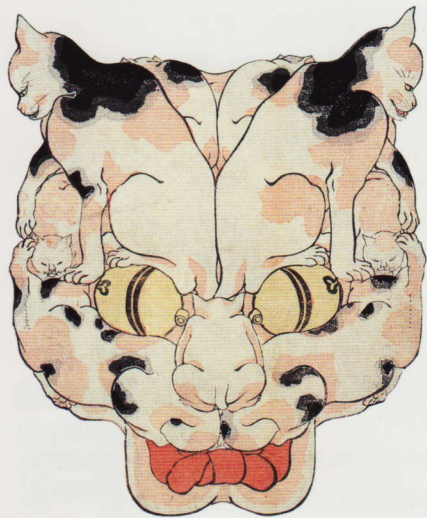
9月7日(月)・13日(日)・14日(月)・16日(水)

入館料—一般300円/小中学生100円/65歳以上の方及び障害者の方は無料

主催—渋谷区立松濤美術館

渋谷区立松濤美術館

〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL.03-3465-9421



江戸の遊び絵

特別展

遊びと祝いの浮世絵の世界



特別展

江戸の遊び絵

遊びと祝いの浮世絵の世界

庶民的な絵画の代表である浮世絵は、江戸時代の絵画史を語る上で欠く事のできない重要な存在ですが、遺された作品の数はおびただしく、内容的にも様々な主題が描かれています。美人画や風景画などは良く知られるところですが、江戸庶民の遊び心が生み出した遊び絵と呼ばれるジャンルは、まだ一般に広く知られていないようです。しかし、遊び絵の機知にあふれ、軽妙で、斬新な造形性は、江戸庶民文化の豊かさを示すものであり、現代においても高く評価されるでしょう。

この展覧会では、様々な事物を組み合わせて別の新しいイメージを作り出す①寄せ絵をはじめ、②奇体画、③顔面絵、④切抜き絵、⑤仕掛絵、⑥身振り絵、⑦影絵、⑧隠し絵、⑨ひも絵とくぎ絵、⑩文字絵、⑪絵文字、⑫遊び文様、⑬判じ絵、⑭地口絵の14に遊び絵を分類し、その機知とユーモアの世界を楽しみます。

また、福助やお多福などをモチーフとして「めでたさ」を表現する有卦絵や、大黒や恵比須をはじめとする七福神図は、宗教的な主題を扱いつつもやはり庶民的な遊びの精神にあふれており、近世的な新しい宗教画として、新たな評価が望まれます。

この展覧会では、未紹介作品を多数含む180点あまりによって、この遊びと祝いの浮世絵の世界を紹介します。

(※9月1日(火)より) 作品展示替えます。



歌川国芳 ときりのよふな若い人だ



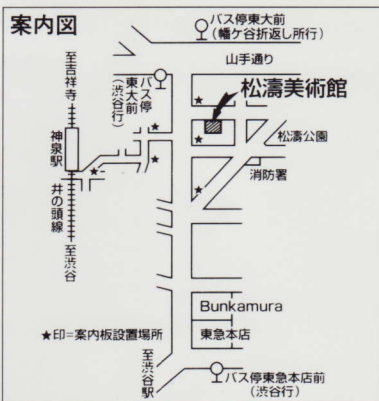
歌川貞景 五十十童図



無款 天加羅度利泡喰鳥



歌川国芳 七福神宝の蔵入



渋谷駅徒歩15分/井の頭線神泉駅徒歩5分

講演会 ●8月22日(土)午後2時～「江戸の遊び絵」

講師＝稲垣進一(日本浮世絵協会編集委員)

美術 ●8月23日(日)午後2時～3時

映画会 京都の魅力「三千院、醍醐寺」「金閣寺、銀閣寺」

●9月12日(土)午後2時～3時

京都の魅力「西陣織、京友禅」「数奇屋の美」

美術 ●8月8日(土) 午後2時～4時/茂登山東一郎(油彩)、松島靖(水彩)

相談 ●9月6日(日) 午後2時～4時/宮田翁輔(油彩)、大和屋巖(水彩)

渋谷区立松濤美術館

〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL.03-3465-9421